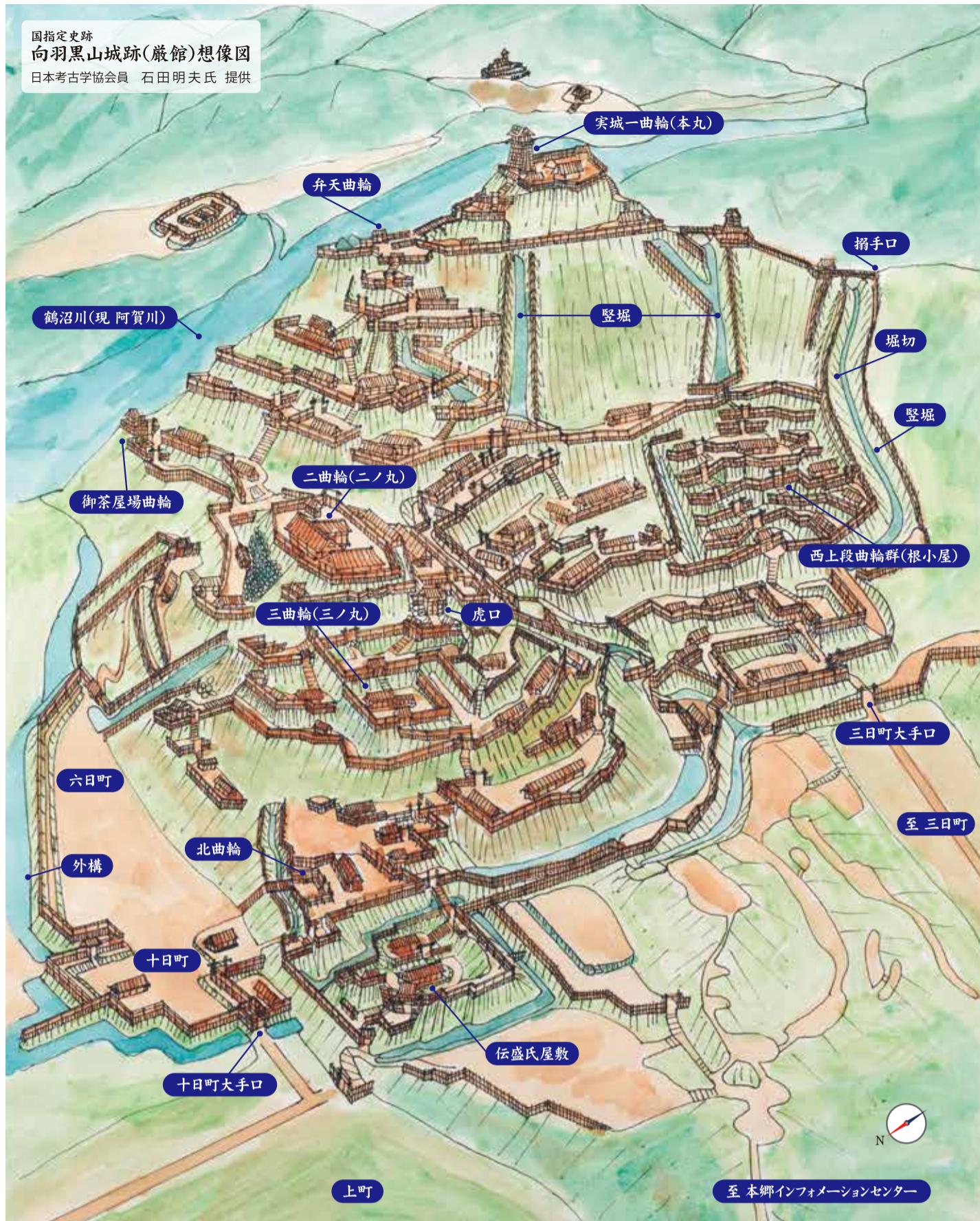


国指定史跡
向羽黒山城跡(城館)想像図
日本考古学会員 石田明夫氏 提供



日本最大級の山城

会津盆地の南端にそびえる向羽黒山城(岩崎城)跡は、鶴ヶ城から阿賀川を隔て、南南西に約6kmの位置にある。この山城跡は岩崎山(各曲輪群)、羽黒山(出城)、観音山(出城)の三山からなり、風光明媚な白鳳山公園としても人々に愛され続けている。

別名巖館(岩崎城)とも称され、標高408.7m、比高約184m、主曲輪(本丸)の岩崎山を中心として東西1.4km、南北1.5km、面積50.57haの広大な城域が平成13年に国の史跡指定となった。

これは東京ドーム11個分に相当する。城は、主曲輪、二曲輪、三曲輪を中心として夥しい曲輪群が、地形を巧みに利用した要害となっている。この山城の完成時に僧覚成により作成された長文の漢詩『巖館銘』がその姿を今に語りかけてくる。

「いうところの実(み)城、中城、外構え、は次ぎの如し、堀や土塁の並びは幾重なるを知らず。門垣(柵)は櫛(くし)の歯を並べた如し経路は縦横に格子布の如し。峯々に炉(烽火)を結び、谷々に建物を構え様々に人達が行き通うようになり、根小屋、宿町二千余家に及ぶ…」。

敵の侵入を許さぬ堅固な要塞の様子と共に、城下町の賑やかな姿を綴っている。

城主蘆名盛氏の号令の下に永禄4年(1561)から、あしかけ8年を費やしてこの大土木工事が完遂している。

蘆名氏の本城は向羽黒山城

この向羽黒山城を歴史的な背景から戦略的に捉えると、南奥、中部、関東方面に対し謀り事をめぐらしながら、遠交近攻政策の拠点として徹底した備えを完備した山城と思われ、盛氏の壮大な思いが見えてくる。また、蘆名盛氏は隠居に名を託して、当城を戦術的に構築したのは二つの理由があるといふ。その一は、黒川(若松)の側面を強化し黒川(若松)城の弱点を強化すること、その二として、南方下野街道方面よりの敵を防止すること。並びに越後方面より侵入する敵に対し、その側面を攻撃し、敵の黒川(若松)城攻撃を阻止するにあつた。つまり敵が目的地に侵入する前に、行く手を阻み殲

滅を計る攻勢防禦的な城であるといふ。年若い嫡子盛興を政所の黒川城(鶴ヶ城)に入れはしたが、大御所として全ての実権とその采配を振っていたのがこの向羽黒山城主時代であった。

※参考:『会津・仙道・海道地方諸城の研究』他

蘆名氏中興の祖十六代盛氏

「丹波の赤井、江北の浅井、会津の盛氏、若年の大将には参河の家康なるべし」

これは甲州の武田信玄が残した言葉と伝えられているが、蘆名盛氏は甲州の武田信玄、小田原の北条氏康、越後の上杉謙信とは同格の武将であり、特に武田信玄や北条氏康とは同等の盟約を結んでいた。盛氏が没した時、伊達政宗は十四歳の少年でしかなかったが、盛氏と戦わなかつたことが幸いであったかも知れないと云われている。

※参考:『会津四家合考』『会津芦名一族』

一流の豪族には一流の文化が花開く

—会津茶道発祥の地—

この向羽黒山城には、お茶屋場曲輪、楽人屋敷、神楽所、菜園(菜園)といった地名が残されている。足利將軍家がもたらした会津茶道発祥の地とも伝わり、永禄年間に止止斎と号した盛氏やその重臣には、茶道に関する書簡も残されている。また、武田信玄に追われた、信濃国の守護小笠原長時は盛氏を頼りに会津に赴き、小笠原流弓馬術法を会津に伝えた。長時は盛氏の軍師となり十八代蘆名盛隆時代には、蘆名氏のために天皇宛ての親書を草稿した。

上杉景勝が向羽黒山城で徳川勢を迎撃つ

会津は蒲生時代が過ぎ、上杉時代を迎えた慶長5年(1600)7月、関ヶ原合戦の直前に徳川家康が会津征伐に向った。情報をいち早く察知していた上杉景勝は、向羽黒山城の改修に着手して防御を強化し、家康を迎撃したとしたが、石田三成率兵の報にあたり、家康は取って返したため会津での合戦は消えた。向羽黒山城の各所には、当時の急ごしらえの跡が確認されている。



蘆名氏と向羽黒山城にまつわる会津の歴史

会津支配四百年蘆名氏を語らずに会津は語れない

1189 文治5年	佐原十郎左衛門尉義連(蘆名氏先祖)が源賴朝より会津四郡を賜る。
1354 文和3年	黒川小高木館を築く。小高木を後世小田垣に改める。
1379 康暦元年	蘆名7代直盛鎌倉より下向し幕内館(飯寺館か)に居住する。
1382 永徳2年	直盛、小館(西館)に移る。
1384 至徳元年	直盛、東黒川館(小高木館、後の黒川城・鶴ヶ城)へと移る。
1467 応仁元年	応仁の乱はじまる。蘆名氏13代盛高時代。
1521 大永元年	蘆名16代盛生まれる。蘆名14代盛滋没。
1537 天文6年	盛氏が伊達宗室の娘を娶る。
1546 天文15年	画僧(雪村周繼)が蘆名盛氏に「画軸巻舒法」を授ける。
1553 天文22年	蘆名15代盛舜没。嫡子盛立つ。
1559 永禄2年	京都の知恩寺三十世住持笈多上人が、盛氏に從五位下修理大夫の輪旨と足利義輝將軍から授けられた屋形号を持って会津に向る。
1560 永禄3年	蘆名家老・金上盛備が正親町天皇と足利將軍に御礼言上のため上洛。
1561 永禄4年	盛氏の庶兄氏方が謀反、鎮圧される。 向羽黒山城築城開始 、盛氏この年春より居住する。
1563 永禄6年	盛氏、甲斐の武田晴信(信玄)・相模の北条氏康らと対等の盟約を結ぶ。
1566 永禄9年	盛氏、盛興親子仙道(現在の福島県中通り地方)より凱旋する。
1568 永禄11年	あしかけ8年をかけ 向羽黒山城(岩崎城・巖館) が完成する。巨大な山城完成の祝いとして勝常寺の僧覚成が漢詩文「巖館銘」を詠む。
1573 天正元年	盛氏は白河に上洛し常陸の竹義重を破り、上杉謙信がその勝利を祝する。
1574 天正2年	蘆名氏17代盛興没。父盛氏岩崎より黒川(若松)に帰り再び政を聴く。盛氏、須賀川の二階堂盛隆を養子とし故盛興の室に配する。
1578 天正6年	上杉景勝と景虎の戦い(御館の乱)となり、盛氏は当初景虎側につくが、後に景勝に味方する。信濃守護小笠原長時会津に来て盛氏を頼る(盛氏の軍師となる)。
1580 天正8年	60歳で盛氏没。小田山にて戦国大名にふさわしい葬礼が執り行われる。
1589 天正17年	伊達政宗と「磨上原の合戦」で会津支配400年を誇る蘆名家が滅亡する。蘆名家20代義常・忠良へ落ちる。後に兄佐竹氏の客将として秋田県角館を支配する。
1590 天正18年	伊達政宗、黒川にて正月行事を行う。三日には風雪をついで軍事訓練を向羽黒山城下で行う。蒲生氏郷、会津・仙道の地に封ぜられ黒川城を賜る。
1590～1598	蒲生氏郷時代 向羽黒山城改修の痕跡が見られる。
1598～1601	上杉景勝時代 向羽黒山城改修の痕跡が見られる。
1601 慶長6年	上杉景勝が会津から米沢へ移封となり、向羽黒山城が破城となる。

※年表についての説明あり

佐原 よしつら 義連 (82)	1140～1221	蘆名 もりとも 盛連 (60)	1174～1233	光盛 (65)
やすもり 泰盛 (79)	1236～1314	もりむね 盛宗 (68)	1271～1338	もりかず 盛員 (40)
なおもり 直盛 (67)	1324～1390	あきもり 詮盛 (73)	1346～1418	みつもり 満盛 (66)
もりのぶ 盛信 (66)	1386～1451	もりひさ 盛久 (29)	1416～1444	もりあき 盛詮 (44)
もりたか 盛高 (70)	1448～1517	もりしげ 盛滋 (37)	1484～1521	もりきよ 盛舜 (66)

士もりうじ
代盛氏
(60)
1521～1580
1580～1584

もりおき
盛興
(28)
1547～1574

もりたか
盛隆
(34)
1550～1584

かめおり
わか
まる
亀王(若)丸
(3)
1584～1586

よしひろ
義広
(59)
1572～1631

会津蘆名氏 会津統治400年間
文治5年(1189)～天正17年(1589)



国重文 蘆名盛氏坐像 【瑞雲山 宗英寺蔵】

伊達氏 政宗 会津統治1年間
天正17年(1589)～天正18年(1590)

蒲生氏 うじまと
秀行 会津統治8年間
天正18年(1590)～慶長3年(1598)

上杉氏 景勝 会津統治3年間
慶長3年(1598)～慶長6年(1601)

